国際建築都市デザインワークショップ開催

3月13日から23日までの間、日本建築学会 まちづくり支援建築会議・都市計画委員会の主催で、▽水や緑などの環境循環に軸をおいた広域的地域計画の骨格づくり▽生活しやすく、新しい地域観光を導くことが出来る魅力的なネットワークづくり▽高齢者や子供も安心して暮らせる市街地のデザイン、などを主要なテーマに「2011国際建築都市デザインワークショップ高梁」が開催されました。

まちあるきの様子（3月14日 成羽町吹屋地区）

東日本大震災の影響により、参加ができなくなった人もいましたが、アメリカやインドなど、世界8カ国から総勢40名の建築の研究者たちが高梁に集合しました。

一行は、3月14日に行われた「まちあるき」で、備中松山城や武家屋敷、伝統的建造物群保存地区に指定されている吹屋のまちなみなどを見学。続いて6つのグループに分かれて、「歴史遺産」、「駅と商店街」、「水資源」など、個々にテーマを定め、調査・研究を行いました。

3月22日には文化交流館3階の中ホールでワークショップの最終発表会・講評会を開催。今後の高梁のまちづくりの参考となる画期的な提案が次々と発表され、会場に集まった市民の皆さんは、熱心に聴き入っていました。

研究者たちが発表のために作成したパネルは、5月9日㈪まで文化交流館1階オリエンテーションセンターに展示しています。皆さんぜひご覧ください。

最終発表会・講評会（3月22日 文化交流館）

■問い合わせ
企画課企画係（☎㉑0208）

～春の特別陳列～

児島虎次郎とゆかりの画家たち－大原美術館所蔵品と共に

現在、成羽美術館では児島虎次郎の生誕130年を記念して、春の特別陳列「児島虎次郎とゆかりの画家たち」を開催しています。

会　期：5月15日㈰まで

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
会　　場：高梁市成羽美術館　2階絵画展示室
主　　催：高梁市成羽美術館（☎㊷4455）
入 館 料：一般500円、高校・大学生300円、小・中学生200円
65歳以上の方は無料（証明書を提示ください）
市内小・中学生は、学校休業日は無料
休 館 日：毎週月曜日

児島虎次郎《藤椅子の女》大原美術館蔵

児島の画業を振り返る時、個性豊かな画家仲間たちとの出会いが、47年という短い生涯を彩りあるものにしていたことがうかがえます。岡山出身の徳永仁臣、満谷国四郎、吉田 苞、中山 巍。東京美術学校の同窓生である太田喜二郎、熊谷守一、前田寛治。さらには「馬の画家」として知られる坂本繁二郎や京都の安井曾太郎など、その交流は広く展開されていました。特に、留学画家同士は、慣れない外国暮らしを互いに支え合い、切磋琢磨（せっさたくま）したことでしょう。

本企画では、これまで紹介される機会の少なかった児島虎次郎の作品とゆかりの画家たちの作品合わせて52点を展示し、児島の豊かな交友関係や当時の洋画界で繰り広げられた闊達（かったつ）な絵画表現のエッセンスを伝えます。

安井曾太郎《葡萄図》大原美術館蔵

満谷国四郎《裸婦》大原美術館蔵

児島虎次郎は明治14年（1881）、現在の高梁市成羽町に生まれました。幼少のころから画才をあらわし、画家を志して上京。全国から精鋭が集う東京美術学校（現・東京芸術大学）で研鑽（けんさん）を積みました。

岡山孤児院を描いた《なさけの庭》が宮内省買上げとなるなど若くして高い評価を得ると、倉敷の実業家・大原孫三郎の援助を受けてヨーロッパへ渡り、主にベルギーで色鮮やかな印象派風の描き方を学びます。

帰国後は西洋の技法や色彩感覚と日本の風土の融和を目指しますが、後には東洋人としての画業を探求するため、中国や朝鮮半島へも度々赴いて制作しています。

自らの絵画修養とともに大原美術館の基礎をなす名画収集にも尽力し、モネやゴーギャンなどの傑作を日本にもたらしました。昭和4年（1929）没、享年47。